

サノックスの目安箱 「コロナと私」



第 023 号 2020 年 9 月 15 日 梅澤隆

コロナと IT

コロナ禍のおかげで、一つのことが明らかになりました。それは、日本は IT 先進国ではないということです。政府は、2018 年に「世界最先端デジタル国家創造」を決定したのですが、その実現は絵に描いた餅になりかねません。コロナ禍関連の対個人、対企業などの各種の給付金の処理も、結局、多くは人海戦術に頼らざるを得ないというのが現実でした。

その背景には行政も民間企業も、ユーザー側にきちんとした教育を受け、豊富な経験を持つ IT エンジニアがいないということがあります。そのためきちんとした仕様書を作成できないということさえ起こっています。きちんとした仕様書ができなければ、ベンダーと呼ばれる外注先が、どんなに優れたエンジニアをそろえても、まともに動くコンピュータシステムができるはずはありません。今回のコロナ禍でもそのような事例はいくつも見る事ができました。

他方、日本以外の多くの国々ではでは、ユーザー側に多くの IT エンジニアが所属しています。それらのエンジニアがリードして、自らのコンピュータシステムを作り上げています。コロナと戦うためにも IT は大きな武器となります。それは台湾の IT 担当相、唐鳳(オードリー・タン)氏による対コロナでの活躍でも明らかです。これは「マスク・マップ」とよばれ、全国 6000 カ所以上でのマスクの在庫を 3 分ごとに更新するシステムで、タン氏は、これを三日で稼働させたのです。そのためマスクの在庫が確認できることで、市民の安心に大きな貢献をしました。日本でもコロナと戦い、さらに「IT 先進国」を目指すなら、ユーザー側の IT エンジニアの確保と充実を含めた IT 運用能力を高める必要があります。

梅澤隆 (国土館大学名誉教授)